

教育班便り

9月その2

【学校教育の指導の重点】

- 重点1 豊かな心と健やかな体の育成
- 重点2 確かな学力の育成
- 重点3 家庭・地域と連携・協働した
創意ある学校づくりの推進

9月も後半に入り、今年度も折り返し地点に入りました。新学習指導要領全面実施より小学校は1年半、中学校は半年が経過しました。各学校におかれましては、その改訂の趣旨を理解した上で、校内研究を推進し、なかでも、「協働による授業づくり」を通じた「授業改善」に力を入れて取り組んでいるところです。

授業は教育活動の要であり、我々にとっては、一人一人の子供と真正面から向き合える尊い時間となります。授業を通して、一人一人の子供に様々な力を養い、一人一人に自分の可能性を実感させることができる場・時間と考えます。そこで、今回は授業について、「授業改善」についての3つの視点から先生方と共に考えていきたいと思えます。下のチェックリストは、1学期間に実施した指導主事学校訪問を振り返りながら作成したものです。半年間を振り返り、ご自身の取組はどうか、学校全体としてはどうか、ぜひ、この機会に再確認し、明日からの授業づくりにつなげていきましょう。

授業改善のための3つのポイント



【ポイント1 単元計画について】

- 単元を通して身に付けさせたい資質・能力が明らかになっているか。
- 単元のねらいに迫るために、単元を貫く学習課題が設定されているか。
- 単元のねらいに迫るための手立てが示されているか。
- 各教科の見方・考え方を働かせることができる単元計画になっているか。
- 指導と評価を一体化して進める計画となっているか。

(「指導と評価の一体化のための参考資料」国立教育政策研究所参照)

- 単元計画を児童生徒と共有し、単元全体の学びに見通し、目標を持たせているか。
- 指導計画と評価規準は、学級の実態や指導の重点等を考慮した内容になっているか。



「指導と評価の一体化」のための参考資料

→→→



【ポイント2 思考力育成のために】

- 教師主導で授業が一方向的に進められていないか。(一問一答形式で進められていないか)。
- 生徒の気付きや発言を生かし、さらに深く考えさせたり、新たな問いを持たせたりするようにしているか。
- 児童生徒が思考する時間(考えの根拠を明らかにする、「なぜ」「どうやって」等を自問する時間)を確保しているか。
- 言語活動に取り組みさせる「ねらい」をしっかり持っているか。そのねらいを児童生徒と共有しているか。
- 振り返りの視点を与え、文字言語で振り返らせることを行っているか。

【ポイント3 ICTの効果的な活用について】



- タブレットの活用で学習が深まっているか。思考の深まりに結びついているか。
- 「全員でタブレットを活用する場面」、「全員でノート等を書く場面」、「個々でタブレットを活用するのか、ノート等を書くのか選択できる場面」などを意図的に場面分けしているか。
- タブレットの使用に集中するあまり、教師対児童生徒、児童生徒同士の対話が少なくなっていないか。

《 指導主事学校訪問で拝見した好事例 》

- ・興味・関心を高める導入での活用（アンケート機能、画像、アニメーションの提示など）
- ・プレゼンなど作品の制作 → 全員での共有
- ・提出した課題に対する速やかなフィードバック
- ・家庭学習での継続的な活用
- ・学びのポートフォリオづくりなどを評価に活用 他

※ StuDX Style(スタディーエックス スタイル)文科省 に様々な事例等が掲載されています。こちらからWeb ページを閲覧することができます。→



「校内研修を質的に転換しよう」

田村学氏(國學院大學教授)は「授業研究」について、以下(出典は後述)のように記しています。(一部を抜粋して紹介します)。協働による授業づくりを進めるうえで、参考にしたい内容が盛り込まれています。



意識を転換する

「授業研究は」は授業者の腕の善し悪しを判断し、授業者の力量を品定めする場ではありません。むしろ、「授業研究」は、子供の学びを対象とすべきです。そのことは、結果的に授業者よりも参観者の姿勢と力量が試される場となることを意味します。

固有名詞を具体の事実で語る

私たちは、授業などにおける子供の姿を基に協議の場に臨むわけです。協議会では、授業の具体的な事実と子供の名前を用いて語る事が欠かせないはずで。

「〇〇さんが、〇〇の場面で、〇〇と発言しました」と。そのためには、一人一人の子供の姿を丁寧に見取り、記録することが求められます。「主体的・対話的で深い学び」を明らかにするためには、諸感覚をフルに使って、子供の発言、子供の行為からの情報収集に努めなければなりません。(略) 加えて言えば、その事実が生じた原因を探りたいものです。

代案を示す

実際の授業の在り方に対して賛否を表明することは必要です。…だとすればなおさらのこと、気になった場面についての代案を示すことが大切になります。授業中に見られた課題や生じた問題状況を、どのように改善すべきかを具体的なアイデアとして語り、意見交換していかなければならないはずで。

「〇〇が気になりました。その原因は〇〇にあると思います。私なら〇〇してはどうかと考えます」と。こうした発言をしていくためには、授業を参観しながら、問題状況の原因とその改善策を「どうして」「どうする」と考え続けなければなりません。

國學院大學教授 田村 学 『学校教育・実践ライブラリ』Vol.4(ぎょうせい) より